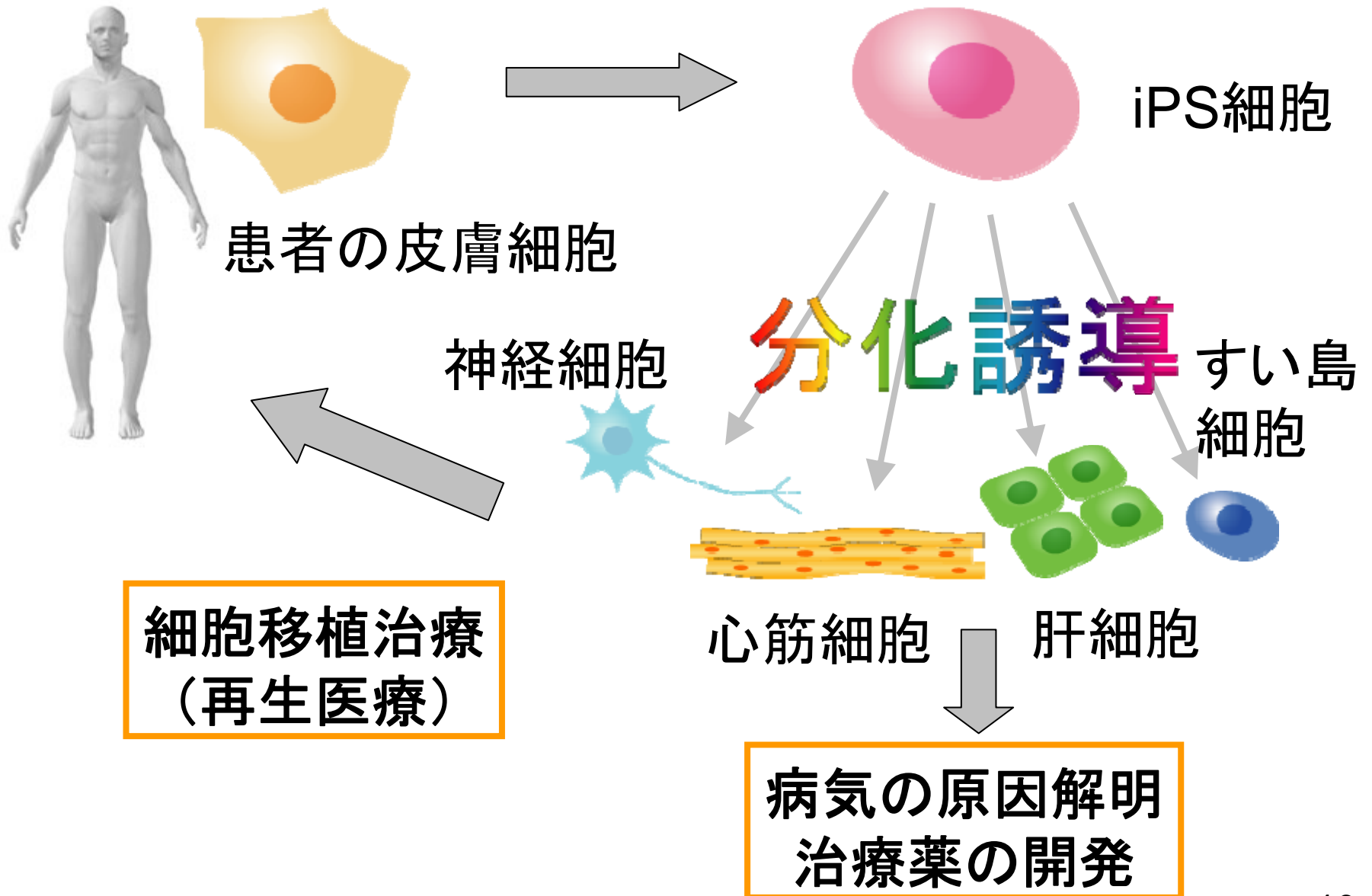


iPS細胞：何ができるか？



iPS細胞

ES細胞に匹敵する万能細胞

胚利用、拒絶反応を回避

我が国発の技術

しかし

まだ萌芽期でさらなる研究必要

激しい研究(特許)競争

海外の動向

ハーバード大学、ウインズコンシン大学
カリフォルニア大学、北京大學 など20機関以上

ヒトiPS細胞をすでに樹立

幹細胞関連研究費

アメリカ国立衛生研究所(NIH):年間650億円

カリフォルニア州: 10年で3000億円

マサチューセッツ州: 10年で1200億円

政府の支援（iPS細胞誕生まで）

H9年～ 文科省 科学研究費

H15年～ 科学技術振興機構 CREST研究費

H17年～ 新エネルギー・産業技術開発機構
(NEDO) 研究費

H18年 マウスiPS細胞に成功

H18年～ 医薬基盤研究所 研究費

H19年～ 文科省 特別推進研究

H19年 人間のiPS細胞に成功

政府の支援（iPS細胞誕生後）

H19年

11月 人間のiPS細胞に成功

H20年

1月 総合科学技術会議 iPS細胞研究WG
産総研、NEDO（経産省）との共同研究開始

2月 JST iPS細胞関連3プロジェクト開始

4月 文科省 再生医療実現化プロジェクト
(20億円プラス補正予算15億円)

厚労省 臨床試験に向けた研究班

11月 スーパー特区

スーパー特区

内閣府、文科省、厚労省、経産省

開発段階からの連携

産学連携
プロジェクト

京都大学
慶應義塾大学
東京大学
理化学研究所

アステラス製薬
島津製作所
武田薬品工業

iPS細胞を用いた先端医療を推進

今後の課題

基礎、前臨床研究

研究費、特許支援費の引き続きの支援
iPS細胞研究センター安定運営への支援

臨床研究関係

細胞調製・培養の外部委託を可能にする
高度医療制度の活用(患者負担の軽減)
ベンチャー企業へのさらなる支援

今後の課題

一日でも早い実用化のために

複数研究費の一括管理、評価、報告

早い段階からの担当省庁と研究者の連携

臨床研究承認制度の創設

薬事審査体制の強化、迅速化